

広島大学病院

Hiroshima University Hospital News

No. **35**
2015. 1

ニュース



- 新年のご挨拶
- かすみ散策スポット
「森戸辰男初代学長の記念樹」
- 「発掘された大学食器」展
- インタビュー
広島がん高精度放射線治療センター長に
内定した永田靖教授

- ニュースアップ
カープの梵選手が子どもたちを激励
萩原麻未さんが院内でコンサート
広島土砂災害でのDMAT検証会開く
恒例のクリスマスコンサートを開催
- 特別シンポジウム
災害における多職種連携と今後のあり方
- 催しのご案内

ご自由にお持ち帰りください。

入院棟前のいこいの広場にて撮影(2014年12月17日朝)

新年のご挨拶

病院長 茶山 一彰



みなさま明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。

私は2011(平成23)年度から広島大学病院の病院長をさせていただいています。今年の3月までで任期が終了します。2015年度からは耳鼻咽喉科・頭頸部外科の平川勝洋教授が病院長に就任する予定です。私が病院長になってからの主な出来事を思い返してみました。2011年に病院長になったばかりの時は、東日本の震災と原発事故のすぐ後であり、放射線障害に対する支援に職員を派遣したり、内部被曝の線量を測定したりといった活動がありました。また、2014年8月には広島市安佐地区で豪雨と土砂崩れにより74名の尊い人命が失われました。これらの災害はまだ完全に復旧したとはいえない状況です。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに一日も早い完全な復興をお祈りしています。

広島大学病院では2013年9月に新しい診療棟が完成し、一新した環境の中で医療を行うことができるようになりました。この診療棟はグリーンホスピタルをスローガンに、患者さんや環境に優しい治療を目指しています。また、新しい立体駐車場が完成しました。外来を受診される患者さんやお見舞いの方の駐車料金を有料化したこともあって、それまで雨の日などは国道2号線まで連なっていた渋滞がほとんどなくなり、受診される方たちの利便性もよくなったと思います。

大学病院の使命は診療とともに医療人を育成することですが、それだけではなく新しい医療を開発し、医学の発展に貢献するための研究を行わなければなりません。広島大学は2014年に文部科学省から「スーパーグローバル大学創成支援」(トップ型)に採択されました。これは全国の大学の中でも東京大学、京都大学、大阪大学など13校のみが選定されたもので、研究をいっそう推進していこうというものです。これからの広島大学病院はスーパーグローバル大学にふさわしい研究を行っていかねばなりません。特定機能医療機関としての高度医療の推進、医療人の育成とともに世界トップクラスの研究を行っていく必要があります。診療、教育、研究のすべてに力を注ぎがんばっていきたいと思います。皆様のご協力をよろしくお願いします。

かすみ散策スポット

森戸辰男初代学長の記念樹

霞会館南側の駐輪場の一角で枝を広げるヒマラヤスギ。標柱には「森戸辰男先生記念樹」とあります。社会学者として知られた森戸辰男(1888~1984)は戦後、文部大臣を務めた後、広島大学の初代学長に就任しました。理学部の関太郎名誉教授によると、森戸学長は「1951年ごろ、世界の主な大学へ書簡を送り、原爆の惨禍から立ち上がる大学キャンパスの緑化への支援を訴えた」(広島市ホームページ)そうです。このヒマラヤスギも送られた種子から育ったのかもしれない。



霞地区で発掘された大学食器を 1月20日から医学資料館で展示します

大学病院がある霞キャンパスは終戦時まで、旧陸軍の兵器支廠（武器弾薬の工場・倉庫）として使われていました。2013年5月から2014年1月にかけて立体駐車場建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査が行われ、戦時中の非常食容器や古い病院食器が出土しました。

出土品の一部を2015年1月20日から3月20日まで、霞キャンパス内の医学資料館で展示します。兵器支廠の赤レンガ造りを復元した資料館で、軍需工場から戦後は大学病院へと変貌を遂げた霞地区の歴史に思いをはせてみませんか。



発掘調査が行われた現場の様子



防衛食容器 ～缶詰の代用～

蓋付きのやや大きな湯呑のように見えますが、戦時中に缶詰の代用として使われた陶器製の容器です。当時は「防衛食容器」と呼ばれました。中には肉やイワシ、昆布、豆などの加工食品を入れたようです。

病院食器類

「広大病院」の文字が施された蓋付きの磁器製の茶碗、大皿、小皿、小鉢など。縁取りの線の色は青、ピンク、緑の3種類で、複数の字体が確認できます。高台にMINOの印があることから、当時、病院用食器を多く生産していた岐阜県的美濃窯業製と考えられます。

(広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門 蔵・写真提供)



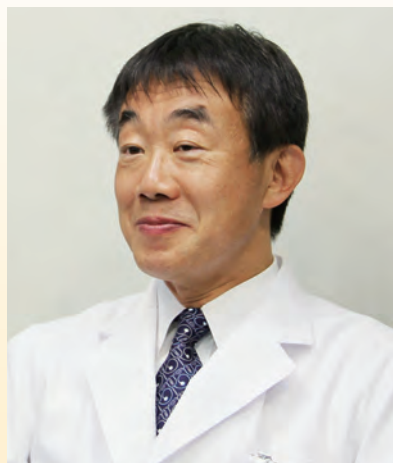
広島大学総合博物館ミニ企画展「霞地区で発掘された大学食器」

2015年1月20日(火)～3月20日(金) 10時～16時【日曜日・祝日休館】 入館無料
2月14・28日(土)に展示解説を行います。

問い合わせ 広島大学総合博物館・埋蔵文化財調査部門
電話 ☎082-424-6198



インタビュー



「体への負担が少なく、より精度の高い治療可能に」

広島がん高精度放射線治療センター長に内定した **永田 靖** 教授に聞く

手術、抗がん剤と並ぶがん治療の3本柱の1つである放射線治療。JR広島駅北口に2015年10月、開業する予定の広島県立広島がん高精度放射線治療センターの初代センター長(兼任)に、放射線治療科の永田靖教授が内定しました。高精度放射線治療とはどのようなものなのか、永田教授に聞きました。

—放射線治療の特徴は。

外来治療が可能で、体力が低下した高齢者でも受けられます。また直接の痛みもなく、体への負担を少なくして、がんを治療することができることです。形態や機能を温存できるので、最近では前立腺がん、舌がん、子宮がん、肺がん、食道がん、喉頭がんなどの早期がんが放射線治療が普通に行われています。



放射線治療センタースタッフ

—高精度放射線治療は従来の放射線治療とどう違うのですか。

近年、機械工学やコンピューター技術が格段に進歩し、より精度の高い放射線治療が可能になりました。すなわち、がんの部分に放射線を正確に集中して当てることで、周囲の正常な組織に対する線量を減らせるようになったのです。体への負担をより少なくした、最新の放射線治療を総称して高精度放射線治療と呼んでいます。

—広島大学病院でも行っているのですか。

主に以下の3つの方法を行っています。多方向からピンポイントに放射線を照射する「定位放射線治療」(SRT/SBRT)、放射線を当てる方向と量を変化させることにより不整形ながんに対応して照射する「強度変調放射線治療」(IMRT)、照射前や照射中にCTなどの画像情報を利用して照射位置の微調整を行う「画像誘導放射線治療」(IGRT)などです。

—どんながんが治療の対象に。

定位放射線治療は肺がんや肝臓がんや脳腫瘍、強度変調放射線治療は前立腺がんや頭頸部がんや一部の食道がんや子宮がん、画像誘導放射線治療は前立腺がんや肺がんや頭頸部がんなどです。1日に合わせて約15~20人の患者さんに高精度放射線治療を行っています。もちろん保険適応です。

—広島県の高精度放射線治療センターが今年10月にオープンします。

広島がん高精度放射線治療センターは広島大学病院をはじめ広島市内の4基幹病院および広島県内のがん拠点病院が共同利用します。最新のリニアック2台のほか、呼吸などで動くがんを追いかけながらピンポイントで放射線を照射できる「動体追尾放射線治療装置」1台も導入します。治療が必要な紹介患者さんを県内全域から受け入れるとともに、人材育成にも取り組んでいきます。

【ながた・やすし】1958年京都府生まれ。京都大学医学部卒業。京都大学助教授などを経て2008年に広島大学病院教授、2009年4月から広島大学大学院医歯薬保健学研究院教授。専門は放射線腫瘍学。

ニュースアップ

広島東洋カープの梵選手が 子どもたちへ応援メッセージバナーを贈呈

広島東洋カープの梵英心選手が2014年10月28日に当院を訪問。病氣と闘っている子どもたちを応援するメッセージバナーをプレゼントしていただきました。

バナーは縦1.5m横2.5mの2枚。8月26日にヤクルト戦が行われたマツダスタジアムで選手やファンが寄せ書きしたものです。

贈呈式では、梵選手から入院中の子どもたちと小児科の小林正夫教授らにバナーが手渡されました。「未来を信じて」とバナーに書いた梵選手は「みんなが元気になるように来年も頑張りたい」と誓っていました。

メッセージバナーはアメリカンホーム保険の「きぼうのMAEMUKIプロジェクト」の一環として実施されました。



応援メッセージバナーを持つ梵選手(左端)ら

萩原麻未さんのピアノ演奏にうっとり



萩原さんの演奏に聞き入る患者さんたち

広島市出身のピアニスト萩原麻未さんのコンサートが2014年11月21日、診療棟3階のイベントホールで行われました。

萩原さんは2010年の第65回ジュネーブ国際音楽コンクールピアノ部門で、日本人として初優勝するなど国内外で活躍しています。今回のコンサートは、萩原さんと親交のある原田康夫元学長の仲立ちで実現しました。

萩原さんは「きょうはいろんなジャンルの曲を用意しましたので楽しんでください」とあいさつ。ショパンをはじめクラシックの名曲から日本の叙情歌、アメリカのポピュラーソング、「浜辺の歌」や「赤とんぼ」まで15曲を披露。素晴らしい調べで患者さんたちを魅了しました。

広島土砂災害での DMAT活動検証会が開かれました

2014年8月に広島市北部を襲った土砂災害で出動したDMAT(災害派遣医療チーム)の検証会が11月19日、霞キャンパス臨床講義棟で開かれました。

広島県内の自然災害でDMATが出動したのは今回が初めて。発災当日の8月20日には広島大学病院をはじめ県内の医療機関から14チーム76人の医師や看護師、業務調整員が現場に赴き、被災者の応急治療などを行いました。

検証会には、広島県や山口県の医療、救急関係者ら約160人が参加。地元医療機関や行政とのコミュニケーションの大切さとともに、心のケアなど中長期を見据えた多職種による対応を求める意見が出されました。



医療、救急関係者らが参加した検証会

恒例のクリスマス会を開催

2014年12月15日、診療棟で年末恒例のクリスマス会を開きました。会場のイベントホールには入院患者さんご家族、職員らが集い、楽しいひとときを過ごしました。

茶山一彰病院長のあいさつに続いて、たんぼぼ保育園の園児たちが元気に合唱。院内学級で学ぶ子どもたちはトーンチャイムやリコーダーの音色と歌声を響かせました。

初出場の栄養管理部の職員たちは、カープのユニフォーム姿でC.C.ダンスを熱演。患者さんたちも見よう見まねで手を動かしていました。

後半はピアノ奏者の沖田孝司さん、ピアニストの千春さんご夫妻が息の合った演奏を披露。おなじみのクリスマスソングや童謡のメロディーに合わせて口ずさんだり、手拍子を打ったりする姿が見られました。



みんなでC.C.ダンス



沖田さんご夫妻の素晴らしい演奏

病院からのお知らせ

特別シンポジウム

「災害における多職種連携と今後のあり方～広島土砂災害の経験から～」

2014年8月20日、広島市安佐地区を襲った土砂災害では多くの尊い人命が失われ、住民が家を失い、避難を余儀なくされました。

数多くの医療スタッフ、福祉関係者、行政担当者、ボランティアなど多職種が活動する中でその連携の難しさにも遭遇しました。

災害は様々な姿や形を変えて襲ってきます。今回のシンポジウムが新たな災害への備えの一助となることを期待しています。

日時：2015年1月25日(日) 14:00～17:00(開場13:30)

会場：中国新聞ホール(広島市中区土橋町7-1 中国新聞ビル7階)

プログラム：

招待講演 「災害関連疾患と戦うために～多職種スタッフによる「挙職一致」～」 山村 修(福井大学医学部講師)

「被災地での支援活動を通じて～災害時、平常時の福祉・防災力を高めるために～」 栗原英文(災害ボランティア活動支援プロジェクト会議幹事)

特別発表 桑原正彦(桑原医院院長) 笠松淳也(広島県健康福祉局長) 牛島伊津子(広島市安佐南区役所厚生部健康長寿課長)

石田浩巳(広島市安佐北区社会福祉協議会主任) 中村隆行(ひろしまNPOセンター専務理事・センター長)

ディスカッション

主催：広島大学 入場無料・申し込み不要 お問い合わせ：RCCフロンティア(☎082-222-1197)



催しのご案内

(2015年1月～3月)

がん治療を支える 患者サロン

場所：広仁会館1階 中会議室

前立腺がんの基礎と治療

1月15日(木) 14:00～15:00 講師：泌尿器科講師 亭島 淳

悪性リンパ腫の基礎と治療

2月19日(木) 13:30～14:30 講師：血液内科教授 一戸 辰夫

がん治療と運動

3月19日(木) 13:30～14:30 講師：理学療法士 小川 円

患者・家族が同じ目線で

がん患者 おしゃべり会

1月27日(火) 13:30～14:30

2月24日(火) 13:30～14:30

3月24日(火) 13:30～14:30

場所：入院棟5階 相談室

いずれも問い合わせは：
広島大学病院 がん相談支援センター
☎082-257-1525